

## 令和3年度 第2回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 令和3年10月1日（金） 午前10時～12時  
場 所： 新潟市万代市民会館 307・308研修室  
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員  
西條委員、指田委員、塩沢委員、高橋委員、多田委員、永田委員  
事務局（男女共同参画課）  
笹川課長、堀川課長補佐、竹田課長補佐、井上副主査、大塚職員、弦巻職員  
団体  
「I女性会議新潟県本部」内田議長、本間事務局長、渡辺さん  
「にいがた女性会議 子どもの人権・子育て支援部会」笠原部会長、杉野さん

### 1 開会

### 2 男女共同参画課長あいさつ

### 3 男女共同参画市民団体協働事業（再募集）審査

#### (1) 「公開講座「養育費について」」（I女性会議新潟県本部）の審査

（団体） 事業概要説明

（西條委員） 県エリアを対象とした団体で他市のメンバーもいるので、県の女性財団のワークショップに参加した方が妥当ではないかと思う。なぜ市の事業に応募したのか。また県の女性財団とのかかわりを教えてほしい。

（団体） I女性会議は全国組織で県本部、県内に各支部があり、各地域での活動を県本部で集約し、各地域へ戻すという体制。議長、事務局長とも新潟市のため中心的な役割は新潟市で、また県本部の立場でアルザにいがたの登録団体にもなっているため、市の事業に応募した。県の女性団体には未加入。

（西條委員） 全県エリアの団体だが、全県で活動することはないのか。

（団体） 県本部が県という立場であれば、県の女性団体の方にも入る方向で検討。

（西條委員） 「行政支援策具体化に向けて」と言っているが、市や県の支援が足りていないという意味が込められていると理解してよいか。

（団体） この制度は国がようやくでき、県も要綱を作り、各地域でこれから具体的な対応をしていこうという状況。市民の立場で現状を認識していかないと行政に要望も出せないなので、具体的な行政支援をいろいろな支援者と一緒に勉強するために、今回の講座を企画した。

（高橋委員） 2回の講座で終了か。養育費の制度についてはもっといろいろ考えることができると思う。今後、どういう活動につなげていくのか。

（団体） 日本も法制化して長い年月が経っているが、養育費を受けている人の割合が上がらない。当事者が補助金に辿り着く手続きの間にいろいろな課題があることがわかった。まず支援者のネットワーク作りと共通認識を醸成することを試みている。2回で終わると思っていない。継続的にネットワークで勉強していかないと進まないと認識している。

（塩沢委員） 女性の貧困が行動計画の中では少し弱いと思っている。今回の講座に期待をしている。継続的な問題意識として形にしてほしい。

(永田委員) 貴団体は基本的には何を目的にしているのか。

( 団 体 ) I女性会議のアイは目、私、愛。女性の人権、平和、共生の社会をめざす運動を続けている。全国的組織だがそれぞれ県本部や地方では行っていることが違う。私たちは女性団体で究極の目的は女性の地位の向上。

(2) 「子どもの人権の尊重と男女共同参画」(にいがた女性会議 子どもの人権・子育て支援部会)の審査

( 団 体 ) 事業概要説明

(高橋委員) 子どもの権利と男女共同参画の活動は直ちに結びつかないような気がする。具体的にどういう形で男女共同参画をしていこうと考えているのか。

( 団 体 ) 子ども条例について、市と市教育委員会が子どもたちの学習会で「男女の違い」や「体の違いがあっても差別されない」ことを強調している。男女の人権の尊重は第4次新潟市男女共同参画行動計画の中で一番目にうたわれている。子どもの頃から男女共同参画の理念をきちんと知ってもらい、知ってもらうことで自分らしく生きるということが大切であり、男女共同参画と一体だと思っている。

(指田委員) 子どもの人権とジェンダーは元をたどれば根っこは一緒でつながっていることで大事なことだと思う。計画している講師の方の話を聞いたが、男女共同参画や子どもの人権のことが講座のまとめに入っていなかった。この講座ではどのような展開の仕方を考えているのか。

( 団 体 ) 同じ市民生活部の広聴相談課の「新潟市人権教育・啓発推進計画」と横断的に推進していく必要があると思う。

(指田委員) 一般市民に男女共同参画をしっかりと落とし込みつつ、子どもの人権のことも知ってもらうために、講師と講座の展開の仕方や進め方を話し合っていれば教えてほしい。

( 団 体 ) 男女共同参画と子どもの人権は幅広いので、最初は子どもの権利で入って、最終的にはジェンダーや男女共同参画になると思う。川崎市では子どもたちが「大人たちが平等で幸せでないと子どものぼくたちも幸せになれない」と言って、行政も動かしたということを講師が話していた。現場の声は本やホームページに載っていないので、講師から質問やディスカッションしながら聞いていきたい。20年間、子どもたちと一緒に取り組んできた具体的な事例を交えて、市がどう動いたかなど、草の根レベルの話をしてくれるのが魅力だと思っている。

(西條委員) 講座の具体的な内容や流れ、時間の構成を計画でよいので教えてほしい。

( 団 体 ) 12月議会で子ども条例が議決をされた後、来年1~3月の間に実施しようと思っている。議案が通ったから良いのではなく、実効性を高めるために連携して幅広い所に呼び掛けて、これからどう進めるかが主眼。

(審議非公開)

#### 4 報告

(1) 令和3年度事業報告(4月~9月開催事業)

(事務局) 各担当より主催事業の報告

- (西條委員) No.10「相談室連携講座」はこの講座で助かっている方はたくさんいると思う。参加する方は何の悩みごとを抱えて来られているのか。事前にどんな課題があるかと聞いたり、アンケートをして、それが分かれば、次の年にもっと良い講座にできるのではと思う。
- (弦巻職員) 講座の様子を見ていると参加者の中には言いたいことが言い出せない方が多くいらっしゃるように感じる。女性らしさの縛りや抑圧があるという話が出ていたので、次年度から事前に聞くなど検討したいと思う。
- (塩沢委員) 企画をする際の出発点はどこのかということ去年から思っている。研修体制も気になっていた所だが、No.13「男女共同参画基礎研修」である程度行っているのかと思っている。ジェンダー統計関連で講座参加者の男女別の統計、男女別の受け止め方の違いなどの特徴を見えるようにしていくと課題が見えてくると思う。できるだけジェンダー統計に即して事業を進めてほしい。
- (竹田補佐) 無記名で書いているアンケートはわからないが、男女がわかるものについては、今後示していきたいと思う。
- (指田委員) No.2「男性の生き方講座（子育て期）」は毎回参加が原則ではないということではどうか。それがチラシに書いていないため、3回連続参加が必須と思い、申込みが少なかったのか。
- (竹田補佐) 最初は3回連続講座だったが、申込みが少ないので、単発での参加も可能に変更した。
- (指田委員) No.10「相談室連携講座」の参加者数で開催前及び途中辞退者の理由は何か。
- (弦巻職員) 開催前辞退者は新型コロナウイルスの関係で辞退された。途中辞退者については課題となっていて、講座をやっていくうちに自分のトラウマに触れる機会があり、それをロールプレイで掘り起こしたりするため、恐らく傷に触れたくない方が参加を辞めていく傾向がある。
- (高橋委員) 個別事業については成功した点や反省点はあると思うが、翌年度にどうつなげていくか。次回は年度末、翌年度につながる年度全体の総括と来年度どうしていくかの話になるかと思っている。要望だが、個別事業についてもPDCAサイクルがわかるような報告の仕方、プレゼンテーションをしてほしい。事務局でも反省点を踏まえて来年度はこうしていきたい、というような話し方をしてほしい。
- (竹田補佐) 次回の運営委員会ではそのような課題と今後どうしていくかというのが分かる形で説明するようにしていきたいと思う。
- (指田委員) 別紙の「登録団体交流会」で楽しかったとアンケートに書いてあるが、グループワークはどんなことをしたのか。毎年しているのか。
- (大塚職員) 年2回交流会を開催し、グループワークや研修を含んだ内容をしたことがある。今回は「男女共同参画社会」をわかりやすく伝える言葉を各グループで考えてもらった。
- (塩沢委員) No.14「上映会」で作品の原作がはっきりしているものは情報図書室との連携はどうなっているか。情報図書室の活用につなげるような取り組みはどのようにしているのか。
- (竹田補佐) 主催講座時は講座のテーマに沿った本を司書が選書し図書室の前のラックに展示し、手に取ってもらえるようにしている。また、司書が作成した主催講座に関連したブックリストを参加者に配布している。

5 その他

(1) アルザフォーラム 2021 について

(事務局) 開催状況説明

(2) その他

(事務局) 次回の運営委員会は3月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。

(参考)

決定団体名・事業名

団体名	事業名
I 女性会議新潟県本部	公開講座「養育費について」
にいがた女性会議 子どもの人権・子育て支援部会	子どもの人権の尊重と男女共同参画